



サロン「さんま」開講

4月15日(水)、上山田公民館で同じ趣味を持つ仲間が集まるサロン「さんま」の開講式が行われました。「さんま」とは、三間「^{さんま}空間・時間・仲間」を意味し、この日は健康マージャンを楽しみながら仲間と有意義な時間を過ごしました。

特集 わがまちの自慢

《主な掲載記事》

新分館長さんに聞きました ……	2
令和8年度 分館長・編集委員の紹介 …	3
公民館人事・公民館に期待すること …	4
特集 わがまちの自慢 ……	5
サークル紹介 ……	6
リレーエッセイ ……	7
もっと知りたいふるさと ……	8
(八幡地区)	

新分館長さんに聞きました

4月から各分館の活動が新しいスタートを切りました。その活動の中心となる各地区の新分館長さんに次の①②について伺いました。

①分館の主な活動計画

②地域の皆さんへのメッセージ



森東分館長（屋代）
中村 邦久

①森区は森東分館と森西分館があり、活動・事業は共同して実施しています。今年度は6月にポッチャ大会、8月に盆踊りと夏山ハイキング、9月に敬老会、10月に第1回人権教育研修会、11月に野球球大会と第2回人権教育研修会、来年2月に森地区ふれあい文化祭を計画しています。

②公民館の各種活動や行事は区民の皆さまの参加があつて初めてできるものです。地域のコミュニケーションや交流を深めるため、活動へのご協力とご参加をお願いします。

杭瀬下分館長（埴生）
細田 啓介



①埴生公民館球技大会予選を兼ねた杭瀬下分館マレットゴルフ大会や本大会、区及び埴生地区のポッチャ大会への参加、敬老祝行事、人権研修会、しめ縄づくりなどを計画しています。
②分館行事は地域の交流を深め、コミュニケーション形成に重要な機会です。新たに転入された皆さまも含め、多くの方が参加できるように工夫してまいりますので、ご協力とご参加をお願いします。

西区分館長（稻荷山）
山田 正夫



①西区分館としては、本館主催の分館對抗球技大会参加、西区分館主催の行事は、お花見、暑気払い、敬老会、マレットゴルフ大会の計画を予定しています。
②分館主催の行事は、区民の親睦、コミュニケーションを深める場として、大勢の方々への参加を希望します。まだ、コロナ・インフルエンザ、最近にははしかの影響もありますが、分館役員一同全力で頑張りますので、皆様のご支援とご協力をお願いします。

志川区分館長（八幡）
臼井 徳男



①主な活動計画としては、志

川区民親睦マレットゴルフ大会と区民親睦夏祭りの開催を予定しています。
また、本館主催の分館對抗の新競技であるモルックとポッチャ大会に参加の予定です。

②近年では猛暑・酷暑・各地での災害等続いています。様々な分館でのイベントを通して区民の繋がりを深め、協力していきたいと思っております。よろしくお願いします。

羽尾第五区分館長（戸倉）
金井 榮一



①コロナ禍や台風被害により何年か中止となっていた冠着登山を、今年から実施することになりました。御麓からの登山道は、台風被害により久露滝上部の登山道が未復旧の状態にあり、今回は坊城平から登ります。

冠着山（1252m）は、千曲市で2番目に高い山です。身近な冠着山に登り、さわやかな初夏の一日を過ごしたい

と思います。

②昨年実施した盆祭りなど区民の交流の場として、多くの人が集まれるよう取り組んでいきますので、皆さまのご協力をお願いします。

三本木分館長（上山田）
小柳 盛夫



①6月のソフトボール・ソフトバレーボール大会を皮切りに、温泉夏祭り・運動会・人権教育研修会・文化祭など、体育・レクリエーション活動を予定しています。

②少子高齢化社会で先行きが不安視される中、皆さまとのコミュニケーションを大切に、積極的なご参加と、ご支援・ご協力をお願いします。「楽しく住みやすい」地域づくりをしたいと思えます。



令和8年度 分館長の紹介

(敬称略)

■戸倉公民館

分館名	分館長
磯部	佐藤 義幸
福井	滝沢 秀光
新戸倉温泉	吉池 信晃
上町	高木 憲行
上中町	児玉 亮士
中町	高野 至
今井町	中澤 肇
柏王	新藤 泰彦
戸倉温泉	畑山 昌也
若宮	竹澤 文昭
芝原	中村 孝
仙石	中西 雅広
羽尾第四区	矢島 孝一
羽尾第五区	金井 榮一
須坂	新井 和夫
黒彦	和田 美徳
上徳間	瀬在 良和
内川	飯島 稔
千本柳	金井 聡
小船山	大江敬一郎

■八幡公民館

分館名	分館長
代	岡村 憲男
大池	佐藤 貴男
姨捨	宮坂 久夫
峯	小野 浩男
中原	柴田 久直
郡	青木 一尋
上町	宮坂 利夫
辻	岡村 国和
新宿	高久 祐示
森下	大森 義巳
北堀	青木 和人
志川	臼井 徳男

■稲荷山公民館

分館名	分館長
荒町	増田 茂伸
中町	小林 和正
本八日町	島田 浩一
上八日町	白川 治男
治田町	小林 照昌
元町	清水 響太
小坂	丑澤 孝文
東区	中山 一正
中区	柳澤 勝利
西区	山田 正夫
大田原	松林 健一

■屋代公民館

分館名	分館長
屋代第一	坂口 博美
屋代第二	小林 光嘉
屋代第三	谷地靖二郎
屋代第四	唐木田啓一
屋代第五	春日 重信
屋代第六	瀬下 彰彦
森東	中村 邦久
森西	久保 一雄
倉科	平林 二男
雨宮	袖山 茂
土口	小林 寛
生萱	西村 忠弘

■埴生公民館

分館名	分館長
寂蒔	宮坂 郁朗
鑄物師屋	古川 勇
打沢	相澤 義忠
小島	小森 茂一
桜堂	島田 伸之
杭瀬下	細田 啓介
新田	高橋 正行
中	小林 茂美

■上山田公民館

分館名	分館長
力石	熊谷 善幸
新山	堀内 芳孝
漆原	立川 昇
三本木	小柳 盛夫
八坂	中條 寿顕
中央	安藤 茂樹
城腰	宮原 益夫
温泉	尾崎 美幸



編集委員会です よろしくお願ひします



編集委員

- ◎小林いせ子(稲荷山)
- ◎飯島 孝則(戸倉)
- 鴫澤 正義(屋代)
- 渡邊 里恵(屋代)
- 小川 悦子(埴生)
- 竹内 久(埴生)
- 竹内 正博(稲荷山)
- 久保田唯夫(八幡)
- 本山 育人(八幡)
- 久保田茂保(戸倉)
- 柳嶋 直子(上山田)
- 坂井しのぶ(八幡)
- 轟 恵理子(戸倉)
- 石井 昌弥(戸倉)
- 齊木 規晃(埴生)
- 澤上 瑛(屋代)
- 小林 宏美(稲荷山)

主事

- ◎委員長 水田 宏美(上山田)
- ◎副委員長 鹿田 清子(上山田)

令和8年度

公民館人事

4月1日付で各公民館の正副館長が、市教育委員会から次のとおり任命されました。

新任は、埴生公民館長に北島正光氏（杭瀬下）、埴生公民館副館長に青木幸雄氏（鑄物師屋）の2名です。

また、3月31日付で退任されたのは埴生公民館長の長島克彦氏で、副館長を含め4年間務められました。

なお、その他の正副館長は再任されました。引き続きよろしくお願ひします。



埴生公民館 副館長
青木 幸雄氏



埴生公民館 館長
北島 正光氏

館長からひと言

埴生公民館長

北島 正光

日頃から公民館事業にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

社会教育法に公民館の役割は、「集まる・学ぶ・つなぐ」という指標が設けられており、有意義なひと時を過ごせる場となるよう事業運営に務めていきます。

なお、各分館役員の皆さまには、各分館事業に加え公民館事業にご協力をいただくこととなりますが、よろしくお願ひします。

今年度も市内6公民館では、成人講座をはじめ各種学級、文化事業、体育事業等を計画しましたので、多くの皆様のご参加をお待ちしています。



公民館に期待すること

戸倉 倉島 芳広

昨年、たくさんの方の年間行事のある中で私も区の分館役員として、ほんの一部ではありますが行事に関わらせていただきました。

長年続いていた分館対抗野球大会が野球人口の低下もあり、令和6年度よりマレット大会へと変更となりましたが、多くの分館が参加しプレーを楽しんでいる様子が垣間見えました。比較的高年齢の方が多く見受けられましたので、今後も熱中症対策の検討を引き続き進めてもらいたいと思います。

また、秋に行っていた運動会も、昨年度より野外から体育館へと移行となりました。体育館ならではの競技種目となり、館長はじめスタッフの皆さんは大変頭を悩ませ苦労されたと思います。各分館の役員さんも初の体育館競技となり、人員集めは大変だったことと思います。私たちの分



館も事前会議を数回開き、選手の出場に当たりました。いざ運動会がスタートすると選手はみな楽しそうに競技をしていました。体育館の2階では各分館からの大きな声援が飛び交い、あつという間に時間が過ぎました。雨天中止の心配もなく進めることができるので正解だったのではないのでしょうか？ そのような中で、大人も子どもも一緒に楽しめる競技も考えて行ってもいいと思います。

今後、できれば秋口にでも子どもたちも多く参加でき、老若男女がみな気軽に参加できる遠足のようなイベントがあっても良いのかと個人的に思います。

最後になりましたが、今後も引き続き誰でも気軽に出入りできる公民館であって欲しいと思います。私もできる限り公民館行事に参加していただけると思っております。

公民館報ちくま100号記念誌『もっと知りたいふるさと』販売！

公民館報ちくま100号を記念し、『もっと知りたいふるさと』の1号から100号までを1冊にまとめた記念誌を6月1日から販売します。
千曲市の魅力を改めて感じていただける内容となっていますので、ぜひお求めください。

販売場所 各公民館(屋代・埴生・稲荷山・八幡・戸倉・上山田) 販売価格 1,500円(税込)
8:30~17:15(土・日・祝日を除く) ※数に限りがあります。



特集
わがまちの自慢

みんなが憩う
 日常の広場を花で彩る

戸倉白鳥園ガーデンサポーターズ
 前山 淑子



プロの先生の指導を受けています

「白鳥園に花と緑の公園をつくらう！」を目標に2015年にボランティア団体「白鳥園ガーデンサポーターズ」が誕生しました。石ころだらけの花壇を土壌改良し、花苗を植え、水をあげ、花壇の数を少しずつ増やしてきました。

現在、ガーデンサポーターとして40人の花好きな仲間が集まり、月2回草花を育て、草取りなどの手入れに精を出しています。白鳥園を訪れる



ガーデン巡りバスツアー

と綺麗な花々に出会えることと思います。そのエリアが私たちの活動の場です。40人が5班に分かれ、それぞれの個性を生かした花壇は多彩な花で彩られています。2年前からは新しい花壇にバラを植える一層華やかに皆さんを迎えています。花々が咲き乱れる花壇を見ると「自分たちを自分で褒めてあげたい！」まさしくそんな心境です。

市民の方のご寄付で植えられた河津桜や、私たちが植えた八重桜、染井吉野が春には満開となります。優しく癒される桜の花に、広場は素晴らしい景色となり、市民の憩いの場となっています。

園芸の先生方のご指導を受け、種蒔き・育苗・手入れの仕方の勉強もでき、自宅の花壇も充実してきました。これ

から、どんな景色が次の世代に受け継がれ花開くだろうと想いを巡らし、活動を続けたいと思います。

メンバーとの手と口の運動はストレス解消にもなり、友だちもできてとても楽しいサークルですよ。皆さんも気軽にご参加くださいね（活動は原則毎月第2・4月曜日9時から。詳しくは市報に掲載）。

千曲川河原が温泉街に

上山田温泉(株)

若林 正樹

なんとと言っても自慢は戸倉上山田温泉です。

明治26年に信越本線は横川・軽井沢間が開通し、全通しました。それ以前から鉄道が北国街道沿いに延びて、戸倉宿では往来者・宿泊者が減少しました。戸倉宿の坂井量

之助翁は街道の往来に左右される造り酒屋とは別に、新たに温泉掘削に挑戦し、この年に成功しました。源泉は何もない千曲川河原の真ん中でした。この場所は戸倉村と上山田村の境から100mも離れていない場所でしたので、上山田村でも温泉を掘削しようという気運が高まり、温泉創設委

員8人を選出し、10年後の明治36年によく掘削に成功。「かめ乃湯」を開きました。何もない河原には近隣の資産家や戸倉・坂城・上山などの宿場で宿を営んでいた人たちが、旅館・商店・飲食店を作り温泉街が形成されました。何もない千曲川河原に突如街が出現したのです。

温泉は地下水が地下150m以下にある別所層という頁岩層の割れ目を流れ、温められ成分を溶かし込みながら、温泉となり井戸を通して地上に出ています。非火山性の弱アルカリ温泉で飲用も可能です。ただし、保健所の飲用許可のある場所・旅館でしか飲むことができません。肌がスベスベし美肌の湯と言われています。

現在は、戸倉上山田温泉には七か所の外湯があり、「七福神外湯めぐり」というスタンプラリーが行われています。

26軒の旅館とビジネスホテルに温泉が利用され、当社だけでも毎分2・2トの湯を20軒の宿泊施設他に供給しています。硫黄の香りが仄



1921(大正10)年の温泉全景
 「かめ乃湯」開湯18年後はこんな街ができていた

かに漂う美肌の湯は、多くの皆様に楽しんでいただいています。

温泉は限られた資源です。温泉水の源は上山田の山を起源とし、地下に浸透し、温泉となって地上に出て来るそうです。このところの小雨がどのように影響するかは不明です。この温泉内には約44本の源泉がありますが、現在の源泉を大切にしながら、保守をしていかなないと今後掘ることにはほぼ不可能です。ということは、減少要因はあれど増加要因はありません。「わがまちの自慢」であるこの温泉を大切に保全し利用していきたいものです。

サークル紹介

ハンドメイドを

楽しむ会

稲荷山公民館 渡部 修子

「ハンドメイドを楽しむ会」は稲荷山公民館で活動を始めて1年6か月になります。毎月1回、水曜日の9時半から11時まで開催しています。月替りで作る布小物、刺繍の小物、クマのぬいぐるみの中から自分の好きなコースを選んで製作します。

月替りで作る布小物は、季節の物や、日常的に使える物を手縫いやミシンを使ったり、ボンドで貼ったりといういろいろな物を作ります。刺繍の



かわいいぬいぐるみを作っています

小物は、刺繍のステッチをさまざまに取り入れていきます。クマのぬいぐるみは、ミシンで縫い合わせをしながら体を作り、とても可愛い顔をしたクマが作れます。作った作品を、家族や友人にプレゼントして喜ばれています。製作を始める夢中になってしまつて時間はあつたという間です。わきあいあいとした時間が楽しいですね。

製作にあたっては一つ一つわかりやすいように説明しますので、初めての方でも気軽に挑戦しやすいと思います。布小物の製作に興味、関心のある方の参加をお待ちしています。

トミー先生の千曲教室が始まって15年になります。最初は1人の教室から、今20人になりました。トミー・チョー先生は、長野、神戸、和歌山、岡山にも教室があり、全国鍵盤フィル交響楽団を作り、昨年9月には長野市若里市民文化ホールで100人の演奏をしました。20代から90代までの幅広い年齢層ですが、それぞれが楽しみ、補い合い、響かせながら感動の発表会でした。

千曲鍵盤フィルハーモニカ 音の響きとカタチ

殖生公民館 宮崎 美恵子

「音は見えると思いますか？」と小学生の講座でトミー先生は子どもたちに質問します。子どもと一緒にムツと考える私たち。見えな音なのですが、レッスンを重ね、音の形や響きが見えるようになってきました。丸い音、四角い音、三角形や波の形、音の響きによって形が出てみませんか。



千曲鍵盤フィルハーモニカ

茶道同好会(武者小路千家)

八幡公民館 荻原 進

2月28日(日)、八幡公民館の発表会があり、「茶道同好会」も初めて参加し、お茶席を設けました。

ジュニアとシニアチーム合同で8人、長野教室から2人の応援をいただき、中川教授の指導のもと、薄茶席を設けました。30人程の来客があり、椅子に座つての茶会でしたが、ゆったりとした時を共有できたと思います。当日は「利休忌」でした。会員が協力して活動でき、楽しい公民館行事でありました。

小生は新参者ですが、市報を通じて、中川教授とご縁が生まれ、あながれの官休庵に入門でき、「啐啄同機」です。修歴は小生より長い年下の姉弟子たちと、楽しく稽古

に励んでいます。「且坐喫茶」そして「自寧」の心です。3月2日、姉弟子たちと裏千家の方と上山田三本木ずらんサロンで薄茶会を開き、4月に小坂龍洞院の市民茶会にも参加させていただきます。楽しい一日でした。

稽古は毎月2回、金曜日の午後に行っていますので、地域の皆さま、茶道にご興味ある方は、ぜひご入会ください。



稽古に励んでいます

成人式実行委員を募集します!
当日配布するしおりの作成や式典運営などに携わってみませんか
成人式:令和9年1月10日(日)
対象者
平成18年4月2日~平成19年4月1日生まれの人
応募期限
令和8年6月30日(火)
お問い合わせ...
上山田公民館(式典当番館)
TEL.026-276-5842
FAX.026-276-7330



第3回生萱歴史探検ツアー

千曲市の東端の山麓に位置する19戸程の小さな集落が生萱です。歴史は古く多くの遺産・文化等が残っており、区民の皆さまに知っていただくと共に次世代に伝承していくことを目的に「生萱を知る会」が発足しました。

令和3年6月に社寺や遺跡・偉人などをまとめた冊子『生萱ぶらり歴史さんぽ』を発刊して各戸に配布しました。この冊子を元に「第1回生萱歴史探検ツアー」をその年の10月に開催して偉人の石

「生萱を知る会」の歩み



屋代 高野 俊彦



雨乞い地蔵

碑を巡りました。その後、コロナ感染症の影響により令和6年11月に第2回を開催して、生萱一円の産土神（うぶすながみ）として崇敬する埴科神社の境内をくまなく回りました。第3回は令和7年11月に開催して、歴史の中核を担っている佐久間象山が大砲を試射した記念碑公園や雨乞い地蔵等を巡りました。

さらに時を少し戻して令和5年3月に本誓寺橋南側にある佐久間象山記念碑公園・埴科神社・文殊堂・観音寺の4か所に案内板を設置しました。

また、9月には昭和30年代に作られた「生萱小唄」を元にした絵本『いきがや小唄ぶらり歴史さんぽ』を、区民の島田美知子さんと西村弘一さんに協力していただき作成しました。生萱小唄は12番までありますが、その中の「弘法大師の刻んだ地蔵、願いかければ雨ふらす」の歌詞には「雨乞い地蔵」の絵と弘法大師が



写真、エッセイなどを募集

公民館報編集委員会では、広く市民の皆さんに参加していただき、より親しまれる内容の館報を発行したいとの思いから、皆さんの原稿を募集しています。館報の表紙を飾る写真やエッセイ、わがまちの自慢など原稿の内容は問いません。また、館報に対するご意見ご感想などもお寄せください。

なお、詳細については最寄りの公民館にお問い合わせください。



絵本

『いきがや小唄ぶらり歴史さんぽ』

生萱村を訪れ、地蔵を刻んだ言い伝えや地蔵を川に入れ雨乞いをした文を掲載しています。

当会についていろいろ説明してきましたが、これからも仲間と共に貴重な遺産・文化を伝承する活動を一歩ずつ前に進めていきたいと考えています。

「平和への思い」記事募集

8月の終戦記念日に合わせ「平和への思い」を募集します。

戦中戦後の生活、平和について考えることなど内容は問いません。

400字詰原稿用紙2枚から3枚程度にまとめ、写真などがありましたら付けていただき、

6月15日(月)までに、最寄りの公民館にお出しください。



短詩型文学祭作品募集

千曲市と坂城町で構成する更埴公民館運営協議会では、第31回更埴地区短詩型文学祭を開催します。

応募要領と投稿用紙は最寄りの公民館に用意してありますので、奮ってご投稿ください。

【募集期間】

7月1日(水)～8月31日(月)

【募集部門】

短歌・俳句・川柳・現代詩

【投稿料】

応募用紙1枚につき500円
(小・中・高校生は無料)

【投稿先】

最寄りの公民館



※「館報ちくま」及び「もっと知りたいふるさと」は千曲市ホームページでご覧になれます。

もっと知りたいふるさと

110

羽柴千句のここがスゴイ 千曲市で全国初の宝発見

はじめに

令和7年12月26日付け信濃毎日新聞朝刊一面に「羽柴千句」原本「千曲で発見」との見出しで紹介された「羽柴千句」。戦国時代から武水別神社の神主をつとめる八幡の松田家において、後の天下人・羽柴（豊臣）秀吉が主催した連歌の原物が、全国で初めて発見されたというニュースは、それだけ大きなインパクトを持って受け止められました。とはい

2 連歌会に参加した人たち

全部で1000句詠まれました。それゆえ「羽柴千句」と呼ばれます。羽柴千句には歴史上著名な人物も参加しています。その中から3人をご紹介します。まずは里村（紹巴）の人は当時の連歌界の第一人者で、秀吉の他にも織田信長・明智光秀・細川幽斎などの戦国武将とも交流がありました。次いで聖護院道澄。僧侶ですが、もとは公家の中でも最上位の家格を持つ近衛家の出身でした。連歌では「白」と名乗っています。ちなみに、道澄の兄は近衛前久といい、羽柴秀吉と仮の親子関係を結んでいます。これは後に秀吉が豊臣姓を賜

3 作成された時代的背景

あつたためです。このように近衛家は秀吉と関わりの深い家でもありました。最後に羽柴秀吉。主催者である秀吉も2句詠んでいます。しかし、この時秀吉は中国地方に出陣中であつたため、この2句は別人による代作ではないかと考えられています。

4 なぜ千句連歌が作られたのか

が離反し、同4月にはそれに乗じて毛利氏陣営が上月城を包囲しました。同5月、秀吉は救援に向かいますが戦況は好転せず、同7月に尼子勝久は降伏して自刃します。このように、羽柴千句が作成された天正6年5月前後は、秀吉陣営にとって不利な戦況下にありました。恐らくこうしたなかで戦勝祈願が望まれ、秀吉は千句連歌を開催したのではないかと考えられます。

おわりに

羽柴千句は、松田家において「家宝」とされる古文書と同じように大切に保管されてきた結果、今回の発見につながりました。「地域のお宝」といわれるものの多くは、自然と「いま」に伝来したわけではありません。後世に残そうという先人たちのたゆみない努力や思いがあつてこそそのものなのです。今回の発見を通して受け取った先人たちの思いがこもったバトン。それを今度は自分がしっかりとこれからの人たちに伝えていけるよう、博物館学芸員として日々精進してまいります。

「羽柴千句とは」
天正6（1578）年5月18日から20日までの3日間にわたり、羽柴秀吉が中国地方攻めの戦勝祈願のために作成した千句連歌のことをいいます。全部で10巻あり、そのうち9巻目（100句分）がこのたび発見されました。なお、連歌とは、和歌の上の句（5・7・5）と下の句（7・7）を参加者が交互に詠んでいく和歌の形式をいい、その集まりを連歌会といっています。羽柴千句は、羽柴秀吉の主催で21名の連歌師が参加し、



羽柴千句の冒頭部分

右端に連歌が詠まれた年月日（天正六年五月廿日）が書かれている。その左側には句作のルールでありタイトルでもある「賦朝何連歌」が大きく書かれている。



羽柴千句が保管されていた主屋座敷の押入れ(火災前)

主屋座敷は、主屋内で一番格の高い部屋。その押入れには、「ご家宝」の古文書や刀など、松田家にとって特に大切なものが保管されていた。

編集後記

いよいよ令和8年度の公民館活動も、新役員さんを中心に始まりました。

この公民館活動は、地域社会のコミュニケーションや、そこに住む人々の親睦を図るため、なくてはならない活動の一つです。

このごろ我々地区においても人と人のつながりが薄くなりつつあり、自己中心的な行動が多くなり、自己中心的な気がします。また物事の

判断を、生成人工知能（AI）に委ねたり、スマートフォン中心に行動するような時代になりつつあります。そんな時代においても「自分の目で文章を読み、自分の頭で物事を考え、判断する」ということが大切です。

そのためにもこの公民館報「ちくま」が活用されればと思います。そして、さらに地域社会のつながりや人と人とのつながりに活用されることを願っています。

（稲荷山 T）

発行／千曲市公民館運営協議会

編集／千曲市公民館報編集委員会

電話026-272-1076

FAX026-272-7174

印刷／南ナガト印刷